



除雪出発式を開催

～飛騨地域の冬の生活を支えます～

本格的な降雪シーズンを前に、10月29日に清見除雪センターにおいて除雪出発式を行いました。

出発式では、除雪作業の安全宣言を行い、関係機関・除雪業者及び職員が一致団結し、意識高揚を図りました。

主催者及び来賓挨拶



和賀高山国道事務所長（主催者）

飛騨地域の冬の寒さ、降雪は非常に厳しいものです。

地域の皆様の安全を確保するのが我々道路管理者の使命でございます。除雪作業に対する皆様のご理解、ご協力をお願いいたします。



國島高山市長（来賓）

飛騨地域の動脈である国道41号と中部縦貫自動車道の除雪を確実に行っていただき、地域住民あるいは、全国各地から飛騨地域を訪れる皆様の安全・安心に繋げていただきたい。



富田高山警察署長（来賓）

冬の雪や寒さは飛騨地域の魅力の一つでもあります。

冬の除雪作業に関しまして、飛騨地域の皆様の安全を守るために警察としても全面的にバックアップして参ります。



高山国道事務所管内の除雪業者（金子工業（株）、坂本土木（株）、日産工業（株））を代表して金子工業株式会社が「安全宣言」を行いました。



関係機関、除雪業者が一同に会し、冬の除雪作業に向けて意識高揚を図りました。

「除雪機械の体験学習」を開催！！

式典後に、新宮保育園、清見保育園、清見小学校から46名の皆様方にご参加いただき「除雪機械の体験学習」を開催しました。

体験学習では、除雪機械を間近で見学したり、乗車体験、除雪の実演を行いました。土曜日にもかかわらず大変多数の皆様にご参加を頂きありがとうございました。



職員による除雪機械の説明の様子。
実際に動いている除雪機械に興味津々です。



除雪機械に試乗する子供達。初めて除雪機械に乗ってみて楽しい思い出になったかな？



除雪機械の大きさにビックリしたかな？



記念撮影！ ご来場いただきありがとうございました！

10月27日 飛騨地区の自治体職員を対象に 橋梁点検・補修の現場講習会を実施しました

老朽化により様々な損傷が発生している橋梁に対し、橋梁点検にて損傷評価を行い、早期に補修対策を行うことで長寿命化を図ることが重要となっています。

今回、高山国道事務所管内の橋梁補修工事現場にて、自治体職員を対象とした橋梁点検・補修に関する講習会を実施しました。

日時：平成28年10月27日（木） 13:00～16:00

場所：高山市国府町（名張橋）

参加者：下呂市、高山市、飛騨市、下呂土木事務所、
岐阜県建設研究センター、高山国道事務所の職員 計18名

座学：点検のポイントや補修事例の説明を行いました。



座学研修資料

現場研修：3班に分かれて、実際に点検を実施しました。



橋面点検



地上点検



補修工事現場見学



高所作業車点検

飛騨高山高校の生徒による秋の環境学習 ～高山西ICビオトープ“飛騨の森再生”～

平成28年10月26日(水)に飛騨高山高校環境科学科3年生27名が参加して、秋の環境学習(①根株移植木の剪定、②大型水生植物の間引き、③バッタ捕獲調査)を行いました。

①根株移植木の剪定

ビオトープ内に移植して12年経過したコナラ、カラコギカエデなどの根株はこれまで順調に生育しています。これらの樹木のより一層の生育を促すために、増えすぎた枝の剪定作業を行いました。剪定した枝などは、ビオトープ内で「**エコスタック**」として再利用し、自然再生に役立っています。



剪定作業



剪定前



剪定後



エコスタック

※エコスタック

生物を意図的に自然再生させることを目的に設置する仕掛けのことで、伐採した樹木や剪定した枝などを山状に積み重ねて、昆虫・小動物などの棲み家・隠れ家などとするもの。

②大型水生植物の間引き

ビオトープ内調整池の植生も発達してきましたが、一部の大型水生植物が繁茂しつつあり、開放的な水面の減少や他の水生植物との競合などがみられるようになりました。このため、大型水生植物の間引きを行いました。



間引き作業



作業前



作業後

③バッタ捕獲調査

バッタの仲間は、昆虫の中でも生態や生息環境が比較的良好に知られており、また調査の際にも見つけやすく、その場で種名を調べることができる生き物です。また移動性が少なく、生息環境の影響を強く受ける生物であることから、草地の環境を指標する生物として環境の状況の評価する材料として使われることがあります。

今回の学習では、採集方法や判別方法を学ぶとともに、現在のビオトープがどのような環境であるか、確認できたバッタを用いて簡単な評価を行いました。



採集状況



採集したバッタの分類

ビオトープで見られるバッタ類

平成16年11月の完成以降、平成17～21年と平成26年(整備後10年経過)に生物のモニタリング調査を行っています。

調査によりビオトープでは11種のバッタ類が確認されています。(日本国内では119種、岐阜県内では37種確認)



クルマバッタモドキ



イナゴモドキ



コバネイナゴ

約2時間調査し、採集したバッタを体の色や模様などで判別し5科7種を確認しました。確認種のうち、草丈が低く明るい草地を好むクルマバッタモドキや草丈が高いススキ草地を好むイナゴモドキが見られました。また、池周辺の草地環境を反映する種として湿った草地を好むコバネイナゴも多数見られました。

ビオトープでは草地性生物の生息に配慮した草地管理を飛騨高山高校と協働で行っており、調査結果から多様な草地環境が創出されていると評価できます。